

感想カード（概要）

平成17年8月20日（第4回分科会会議）

分科会について

- 発表者に対して：もう少し整理された発表がほしかった。時間を守って、要領よく、長引かせることもない。内容はそれなりに面白かった。グループでもっと工夫してほしい。
- 9月からの班編成の前に、欠席者が目立って多くなってきたので、出席の意思確認が必要だと思います。そうでないと、班によって人数の大きなバラツキが生じかねない。
- （事務局へ）発表時間：制限時間のお知らせについて。発表の前にルール説明が必要。
①制限時間の厳守。例えば2分前に黄色のカード、制限時間に赤カードの提示など。時間は大切に使い、時間に終了したいと思う。②制限時間の提示方法。事前にペーパーを渡し、呼んで参加はどうか。ホワイトボードの文字が小さく、読めないグループがあった。
- 様々な視点での発表があり、参考になった。
- 各班とも熱意と努力があふれている。一部の班の発表では、基本的な考え方が、4協働・参画、5自治制度などについて、特に異なっているのではないか。
- 発表に時間を守るようにしてください。「のこり2分」をきちんと分かるようにする。時間を守ることも「自治」の1つです。
- 各班のまとめを聞いて新宿区の現状をよくあらわしていると思います。その中で示唆に富んだ発言が2つあったと思います。
【1 地域自治の標準があいまいでまったく分からない。】（注1：裏面「その他」欄）
地域自治の標準がない。現在、地域に存在している町内会、地区協議会、民生委員、築センター運営委員会、地域防災協議会、PTA、スクールコーディネイター等の役割と連携が明確でなく、一般区民にほとんど知られていない。どこにあって誰が統括責任者であるかも一般区民には分からないのが現状ではないでしょうか？自分がどこの地域に属しているかも地区出張所以外は不明確で町会長が誰かも知らない人が大勢いる。ということも地域自治の存在を危うくしていると思いました。
【2 モチベーションに基づかないイベントやキャッチフレーズは意味がない。むしろ害になる場合がある。】（注2：裏面「その他」欄）
協働のモチベーションについて。成功例は、神楽坂にお住まいの委員の方の発言で「路地の文化を考える会」これは良い例だと思います。お仕着せのイベントが失敗した例は、9班の男性の「大久保小学校におけるイベントでの外国人とのトラブル」についての意見が重要だと思います。時間の関係から詳細が聞けなかったのは大変残念でした。
- 会議最後や以前の会議のご案内で、各月に1テーマとし、テーマごとに班替えとするものと認識しているが、各班の発表の最後に今後の各班の目標を設定するよう指示があり、このままの態勢で班替え無しで次回も行われるのではと憶測された。今後の班替えの方法と8月回の成果の引継ぎを確認したい。
- “発表会、煎じ詰めれば、お唱みよう” どの班のレポートを見ても、篩（ふるい）にかけて出てきた要素。先生の云う、サイクル型—焦点—コミュニティ？。お題目でなくして実践論の討議の場であってほしいのに。行政が先生方を呼んで立派な構想を纏め上げた。それは今更に区民会議で反すうしても始まらない。

その他（自由意見など）

- 猛暑の中、大変だったと思いますが、長時間、聞いているのが忍耐のいることでした。
- 専門用語には、（ ）をつけて正確な意味説明をお願いしたい。例；broken window rule（・・・）
- 清掃事務所会議室での各班毎の話し合いは、グループが多すぎて隣の班の大きな声の人がいると、聞こえにくい。フロアのイスなどある所も含めて、各グループの距離が図れるようにして、落ち着いて話し合えるようにしたらどうでしょうか！
- 区民会議で行政と区民が共に育ち、未来を創るものであるならば、なるべく早い時期に参加区民の中に、いろいろの面でできる人が明らかになってきたので運営委員会方式に移すべきではないか。運営への協働・参画が望まれる。
- 第6分科会は、【地域安全、多文化共生、コミュニティ】（コミュニティのあり方）と【協働・参画、自治制度】（区政のバックボーン）にある程度、分けて考えていかないとまとめられないのではないのでしょうか。土屋委員の提案で結構だと思います。
- 事務局は結論を急ぎすぎいませんか？結論を急ぐと、初期の概念が固定化されて以後の発展を阻害する恐れがあります。次回の課題「地域安全」については、（注1）の問題を解明すること及び「安全ソフト」を重点に進めることを提案します。多文化共生は、（注2）で示すように大変難しい問題を抱えていると思います。これを初期の課題とするのは如何なものかと考えます。
- 各班の成果発表を聞いていて、参加目的から内容など、全ての面でばらつきが大きいことが、驚きの感想です。素晴らしいご意見や素案が多いことは、前途に向け大きな成果でもあります。個人感だけでなく、地域間や状況も複雑な新宿区が一番求められているのは、各テーマの素案をまとめあげることのできる能力を養うことが、最重要課題だと思います。参加者の中には、重圧になったり、脱会されている方も、今後増えるように思われますが、誰でもが、納得できて理解できる、区民に優しい基本構想が生れることを期待しています。
- 改革のために意識改善を。町民の自覚と役所の町会に対する見る目を変えること。共に考えるべきと思う。